

若者のために希望の窓を開ける 若者の HIV 感染に対する脆弱性を減らすためのプログラム



Cover Photo: FACT Group

ユニセフ・ガイアナ事務所
最終報告書

unite for
children

unicef 

目次

要旨	3
1. 国の概要	4
2. 問題	5
3. 活動とその成果	6
4. 教訓と課題	8
5. 今後の活動方針	9
6. 資金使途	9
7. 謝辞	9

要旨

ユニセフ・ガイアナ事務所は、2009 年、FNS チャリティキャンペーンより 552,330.30 米ドルの活動資金を受領しました。この資金は、国内における HIV 対策を拡大し、ガイアナの国家行動計画に基づき、ユニセフ・ガイアナ事務所とガイアナ政府との間で合意された若者を対象とした活動への技術支援を通じ、社会の中でもっとも周縁に追いやられた若者を守る「若者にやさしい空間」でのサービスを支援するために有効に活用してまいりました。本プロジェクトは、2009 年 7 月から 2011 年 12 月末までの計画で実施いたしました。

プロジェクトによって達成された成果は以下のとおりです。

1. 都市部や農村部、また“若者にやさしい”情報や社会サービスへのアクセスが限られた奥地のコミュニティにおいて、HIV 予防活動を拡大実施し、国内で最も弱い立場にある若者の多くが HIV 予防サービスに関する情報や支援サービスを利用できるようになりました。
2. 若者に関する知識を構築するため、カリブ諸国青年地域イニシアチブが強化されました。
3. 若者にやさしいサービスに関する国家基準と指針の策定や中学校保健クラブ・プログラムの実施によって、若者たちに質の高いサービスを提供できるようになりました。
4. 政府のサービス提供者がいない奥地の社会の中でもっとも周縁に追いやられた子どもたちがサービスを受けられるようにするために、子どものためのコミュニティ・ケアセンターが農村部や遠隔地に 10 箇所設置されました。
5. 100 人以上の警察官が新しく施行された性犯罪法を学び、彼らが捜査する子どもや若者が関わる新たな事件で実践しています。
6. ヘルスワーカーに対する HIV 陽性者を含む若者への性・生殖に関する医療サービスの情報提供やサービス提供に関する研修が行われました。
7. 教師やファシリテーターに対する保健教育に関する実地研修が実施されました。生徒による保健に関する情報へのアクセスが向上しました。
8. 若者たちにコミュニケーションと様々なテクノロジーを使う機会を提供し、若者主体のメディア発信をサポートしました。たとえば、写真、動画(携帯動画を含む)、ラジオ番組の制作、携帯電話技術や one minute video (メッセージを1分間で伝える映像を制作)などを通じ、若者の表現力などの能力を高めることに貢献しました。
9. 全国の若いウェブユーザーにとって魅力的なフォーラムを提供し、HIV の流行に関する情報・ツールにアクセスできるバーチャル・コミュニティを作りました。

活動資金の総額 552,330.30 米ドルのうち 550,922.27 米ドルを計画されたプロジェクトに活用いたしました。残額 1,408.03 米ドルは、ユニセフ本部の規則に従い、ユニセフ募金として活用させていただきます。本プロジェクトは、ガイアナ政府の HIV/エイズ国家戦略計画に基づきガイアナ政府とユニセフ・ガイアナ事務所の間で合意された活動です。また、HIV/エイズの蔓延防止を目標とするミレニアム開発目標 6 に考慮し、革新的でありながら文化的に適切な方法論に基づいて計画されました。

本プロジェクトは、3 つの戦略によって、若者への HIV/エイズに関する教育において包括的なアプローチを確保しました。この戦略は、若者へのサービスを強化しようとするものであり、また社会保護の問題として、若者を対象に「行動変容コミュニケーション」を推進するものです。本報告書は、この 3 つの戦略に基づいて行った活動を中心に報告いたします。

課題

ガイアナの荒涼とした地形、点在する人口形態、高い運送費、能力差、限られた資源などの条件によって、公平に、質の高いプログラムを実施することは非常に難しく、本プロジェクトが若者にもたらすべき大きな成果の障害となっています。さらにこの状況を悪化させているのが、政府系パートナーによる優先度の転換でした。ユニセフ・ガイアナ事務所は、このような課題に取り組むため、知識を普及するための大規模なアドボカシー活動を実施しなければならないと考えています。本プロジェクトを通じて明らかになった教訓は、今、持続可能な能力の構築と同様に優先されるべき活動です。

1. 国の概要

ガイアナは、南米大陸の北東沿岸に位置し、太平洋、スリナム、ブラジル、ベネズエラに囲まれています。国土面積は 215,000 立方キロメートルで、10 の行政区があります。同国は南米大陸で唯一、英語を母国語とする国であり、また、南アメリカでカリブ共同体 (CARICOM) に加盟する 2 カ国のうちの 1 国です。

国勢調査 (2002) によると、ガイアナの人口はおよそ 75 万人です。男女比は、男性が 50.1 パーセント、女性が 49.9 パーセントです。15 歳以下の子どもはおよそ 35.5 パーセント、15～64 歳は 54 パーセント、10～14 歳の子どもは 12.3 パーセント、15～19 歳の若者は 9.4 パーセントです。HIV/エイズの影響を最も受けている年齢層 (15～49 歳) は、人口の 51.3 パーセントを占めています。人口のおよそ 28.4 パーセントが都市部に住み、71.6 パーセントが農村部に住んでいます。沿岸地域 (10 地区中 6 地区) に人口の 85.1 パーセントが集まっています。奥地の農村部は人口が少なく、9.4 パーセントとなっています。

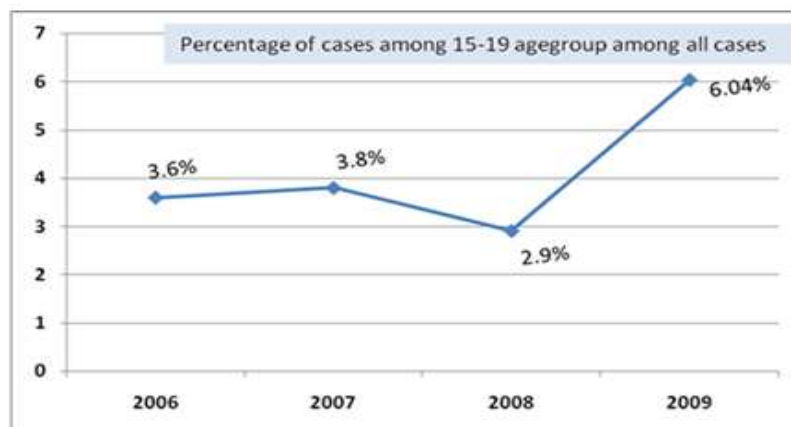
HIV/エイズ

ガイアナで HIV 感染が最初に報告されたのは 1987 年のことでした。2009 年の政府のデータによると、HIV 感染率は 1.9 パーセント、同年の国連エイズ合同計画のデータでは 15～49 歳の感染率が 1.2 パーセントと、感染率が人口の 1 パーセントを超えるため、ガイアナは HIV 流行国とされています。

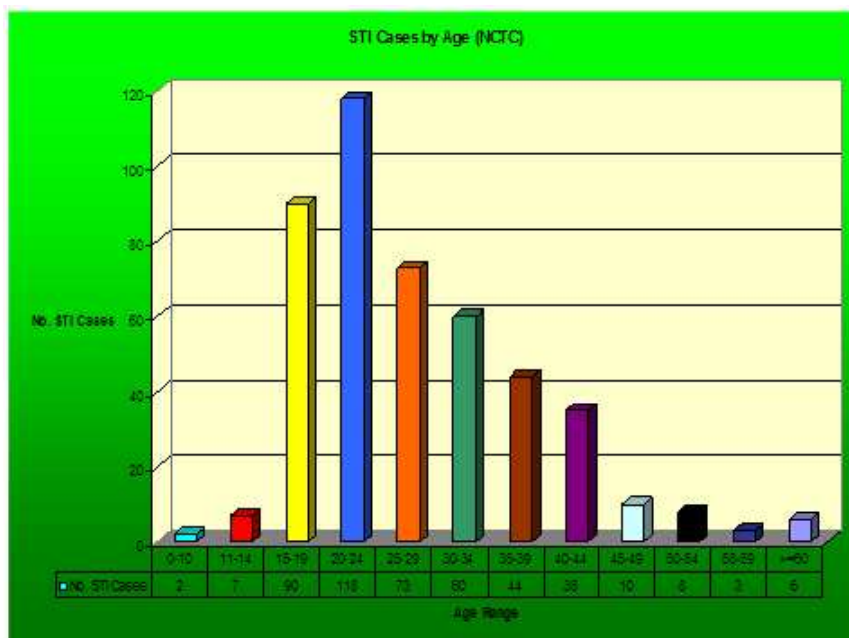
2003 年には年間の HIV 感染者数は男性より女性のほうが多く、その状況は 2008 年まで続きました。しかし、2009 年、女性の感染者数が男性の感染者数を上回りました。国連エイズ合同計画によると、2009 年の若い男女 (12～24 歳) の HIV 感染率は、男性は 0.6 パーセント、女性は 0.8 パーセントでした。

エイズ件数は、女性よりも男性の件数が多い傾向にあります。15～24 歳の年齢層に関しては女性の感染者が多くなっています。留意しなければならないことは、15～19 歳の年齢層のエイズ件数が、2007 年の 2.5 パーセントから 2009 年には 6.04 パーセントまで急増しているということです。

Status of the epidemic (9)- agegroups



上のグラフは、15～19 歳の年齢層の HIV 感染者の割合を示しています。2009 年の感染率が過去数年に比べて 2 倍になっていることが分かります。



2009 年、国立ケア・治療センターで報告された性感染症の患者数は 456 人となっています。15～19 歳の年齢層の罹患率が全体のおよそ 20 パーセントと最も高い割合を占めており、国立ケア・治療センターを訪れる性感染症患者の 5 人に 1 人が十代の若者ということになります。

2. 問題

2.1 ガイアナの若者

ガイアナの若者が直面している様々な課題は、10～14歳の子どもたちに特化したデータや情報が限られていることもあり、国の開発プロセスにおいて考慮されていません。いくつかの例外を除いて、調査対象のほとんどが15～24歳の年齢層であるため、10～14歳の年齢層や15～19歳の年齢層の子どもたちに何が起きているのかを明確に理解することは困難です。この年齢層の若者たちは全体としては HIV/エイズに関する十分な知識を持っていますが、2010年「国連子ども特別総会」の報告書に記載されている通り、HIVに関する意識が低く知識も不十分な地域が全国各地に存在します。

15～24歳の年齢層の若者に関する行動生物学の調査で(BBSS、2008-2009)、学校に通っていない若者の4分の3がHIV予防のための3つの方法をすべて知っていることが分かりました。また、61パーセントの若者がHIVの感染経路について正しく理解していました。学校に通っている若者(15～19歳)の場合、予防のための3つの方法を全て理解していたのは52パーセントで、感染経路について正しく理解していたのは71パーセントでした。

若者のHIV感染への脆弱性は、15～24歳の年齢層の新たな感染者の増加が明示しており、10～14歳の年齢層に対する予防戦略の不備も強く示唆しています。さらに、他の若者と同じように、自らの可能性を最大限にまで伸ばして生きる権利がある、HIV陽性の出産前後期の若者が直面している新たな課題があります。このグループに関する具体的な情報を得ることによって、保健やHIVと共に生きる若者特有のその他の開発課題に十分に対応できるより良いプログラムづくりをサポートします。

HIV陽性者を含む若者向けの保健・社会サービスに関する研究は照会制度の開発につながりました。この研究によって政策立案者がHIV陽性の若者に関する情報を全国の照会制度に組み込むことができ、HIV陽性の若者たちのニーズに対する取り組みが確実に行われるようにしました。2/4/6/10地区の4つのパートナーによって計画・実施されたプログラムを通じ、コミュニティレベルで、特に周産期のHIV陽性の若者の開発ニーズに対する取り組みが確実に行われ、またこういった若者たちが社会サービスなどのサービスを利用できるようにしました。

3. 活動とその成果

戦略1: 若者に関する戦略的な情報の取得 若者における HIV に関するデータの再調査と編集、HIV と共に生きる若者たちに関する研究

活動

- 若者に係る保健・社会サービスのギャップを特定するための新たな取り組みを通じ、HIVと共に生きる若者に関する知識を深め、またHIV陽性者を含むすべての若者たちへの照会制度の改善の実施。
- 資金的・技術的支援によって、若者に関する知識の構築を目的とする「カリブ諸国青年地域イニシアチブ」の強化。10～14 歳の若者の視点にたち、若者育成のための制度的な枠組みの改善および若者育成にむけ改訂された国家戦略「the Caribbean Youth Development 2010-2015」の強化を実施。

戦略 2: 若者へのサービスの強化

活動

教育

保健・家族生活教育(HFLE)に関する教師やファシリテーターに対する実地研修

- ユニセフ・ガイアナ事務所は、HFLE プログラムへ資金的・技術的支援を行いました。中学校教師の 20 パーセント、また 2010～2011 年には 105 人の小学校教師(奥地の小学校の教師 4 人を含む)が新たに研修を受け、全国の 27,825 人以上の生徒に対して質の高い HFLE を実施する能力を身につけました。教育省の戦略計画(2008-2013)に沿って、2013 年までに 300 校に HFLE プログラムが展開されます。
- 100 人以上の警察官が、子どもや女性に対する暴力の問題に関するワークショップに参加し、子どもや若者が関わる事件を扱うスキルを身につけました。警察官は新しく施行された性犯罪法を学び、新たな逮捕や事件の捜査で同法を使っています。
- 農村部や遠隔地に 10 箇所の子どものためのコミュニティ・ケアセンターを設置しました。政府のサービスが行き届いていない内陸部の性的虐待を受けた子どもに対するカウンセリングや心理社会的支援を行うことができるようになりました。また、社会の中で最も周縁に追いやられた内陸部の子どもや若者に対するサービスを提供しています。

仲間同士のサポートや若者の参加を促す学校のピア・エデュケーション(仲間同士で教え、学び合う教育)プログラムを含む保健クラブを支援する。

- ユニセフ・ガイアナ事務所は、以前から、生徒たちに質の高いプログラムを提供するため、全国の教師への研修を含む中学校の保健クラブ・プログラム支援を行っています。そしてこの度の FNSチャリティキャンペーンのご支援で、同プログラムの強化を図るため、戦略開発およびカリキュラムやモニタリング・評価ツールの改訂を行いました。また、改訂された中学校保健クラブ・カリキュラムおよびモニタリング・評価ツールの使い方に関し、同プログラムに関わる教師 55 人と生徒 10 人に対する研修を実施しました。同プログラムは、現在、全国生徒や農村部、遠隔地、都市部の 3,000 人以上の子どもたちがその恩恵を受けています。保健クラブは、子どもの健康(感情面や精神面など)に重点を置き、学校で様々な保健や健康に関わる活動を実施する組織の中心としての役割を担っています。また、生徒たちは、保健クラブで様々な経験をし、新しいことや大切なスキルを学び、保健に関する大切な情報を身につけ、健康的な生活スタイルを作り上げる絶好の機会を得ています。過去 2 年半、同プログラムは、全国 10 地域

すべての地域で実施されるまでに拡大しています。若者たちは、いま、保健に関わる問題について学校やコミュニティにおける子どもたち自身の権利を訴える力を身につけています。

若者とスポーツ

HIV の影響を受ける若者や HIV 陽性の若者たちに接触するための手段として、スポーツや劇、情報通信技術を活用し、コミュニティレベルで若者を対象に知識の提供や健康的な生活スタイルの選択を推進する HIV 予防プログラムを支援する。

- ユニセフ・ガイアナ事務所は、スポーツや劇を用いて、若者に対して HIV 予防に関する情報や健康的な生活スタイルの推進するため、Linden Care Foundation, Hope for All, Artistes in Direct Support and the FACT Group といったパートナー NGO と共に活動しています。ユニセフは Artistes in Direct Support の活動をサポートし、HIV 予防、偏見と差別、アルコール摂取や虐待、薬物予防、家庭内暴力やジェンダーに基づく暴力、そして子どもの権利をテーマとする若者の勉強会が実施されました。そして、勉強会の参加者は学んだ知識を元に劇の脚本を書き、Artistes in Direct Support が若者の HIV 感染リスクに対する脆弱性を減らすことを目的とした 6 本の劇動画を制作しました。若者たちに向けた、同年代の仲間が作った親しみやすい言葉でメッセージを伝えるこの動画は、10 の宗教団体、6 つの青少年グループおよび学校集会における指導ツールとして活用されています。こうして若者たちは、勉強会や動画、劇などを通じ、HIV 感染リスクに対する脆弱性を減らすために役立つ情報やライフスキルを身につけています。



Photo: Linden Care Foundation

- 「開発のためのスポーツ」という考えに基づき、ユニセフのパートナーである Linden Care Foundation は、若者の HIV に対する脆弱性を減らすため、HIV 陽性もしくは HIV の影響を受ける 120 人の若者とその介護者に対し、HIV 予防のメッセージを伝え、ライフスキルを提供しました。若者は、とりわけ、HIV 予防のメッセージ(第一次・第二次予防を含む)、ライフスキル、宿題の手助け、育児などに関する勉強会によって知識やスキルを学びました。彼らの介護者は、十代の子どもたちにうまく関わるため、また HIV への脆弱性を減らす手助けをするため、必要な情報やスキルを学びました。また、ユニセフのパートナーである Hope for All and FACT Group は、HIV 陽性もしくは HIV の影響を受ける 300 人以上の若者と 120 人の介護者に安全な空間やサービスの提供を継続して行っています。このような活動を通じて、若者や介護者たちは、育児に関する授業やライフスキルプログラム、情報技術の授業の恩恵を受け、彼らがより健康的な生活スタイルを選択するための必要な知識やライフスキルを身につけています。

活動

写真、動画（携帯電話動画を含む）、ラジオ番組の制作、携帯電話技術や one minute video（メッセージを1分間で伝える映像を制作）様々なテクノロジーの使用を推進し、若者主導の情報発信を支援する。

- 若者によるメディアグループ Youth Media Guyana は、メディアを通じて、若者の表現力を養い、彼ら自身が直面している問題について声を上げることができる複数のプラットフォームを提供することを目的に設立されました。FNSチャリティキャンペーンのご支援で、同グループは、60 のラジオ番組とニュース番組（11 分）を制作しました。特筆すべきは、若者が制作した番組が国営テレビで放送されたことです。放送を通じ、多くの農村部のコミュニティ（地区 2、3、4、5、6、7）に暮らす約1万人の若者に情報やメッセージを届けることができました。若者たちは自分たちにとって重要な問題について表現する機会があまりなく、Youth Media Guyana が訪問したコミュニティの若者たちがその機会を逃さず制作に参加したことは特筆すべきものです。



成果

FNSチャリティキャンペーンの支援で実施した活動を通じて得られた成果は以下のとおりです。

- 若者にやさしいサービスを通じて、より多くの若者たちが適切な情報にアクセスできるようになりました。また、その情報に基づき、人生に関わる決定をする力をつけました。
- 政策立案者や医師、サービス提供者、若者自身が若者に関する情報にアクセスし、より良いアドボカシーや開発計画、サービス提供、モニタリング、そして若者の参加のために活用できるようになりました。
- 戦略や改訂された基準、国の指針、カリキュラムが策定され、若者にやさしいサービスや中学校保健クラブ・プログラムの実施、HIV 陽性の若者のための照会制度が整備されました。
- NGO を通じ、コミュニティレベルで、保健・社会サービス、HIV 予防プログラムを利用する若者の数が増加しました。
- コミュニティ・ケアセンターや NGO を通じ、HIV 陽性の若者たちは、正しい決断をするため、レクリエーション施設や学術的・社会的サポート、適切な情報を有効に利用しています。
- より良い生活スタイルへの前向きな姿勢を見せる若者の数が増えました。
- HIV 陽性者を含む学校に通っていない若者たちは、代替の学習機会を得ています。
- 教育者や医療従事者、両親や若者は、公式/非公式教育を問わず、HFLE プログラムを HIV 対策の動力として、また効果的な HIV/エイズ教育を行うための重要なプラットフォームとして受け入れました。
- 若者たちはマルチメディア技術を積極的に活用し、知識共有のため、また HIV/エイズの影響を受ける子どもたちの状況を向上するための作品を作っています。
- 子どもの保護や家庭内暴力の問題に関する研修を受けた警察官がいるので、若者たちは自分たちを守る保護制度を信頼しています。

4. 教訓と課題

ガイアナの荒涼とした地形、点在する人口形態、高い運送費、能力差、限られた資源などの条件によって、公平に、質の高いプログラムを実施することは非常に難しく、本プロジェクトが若者にもたらすべき大きな成果の障害となっています。さらにこの状況を悪化させているのが、政府系パートナーによる優先度の転換でした。ユニセフ・ガイアナ事務所は、このような課題に取り組むため、知識を普及するための大規模なアドボカシー活動を実施しなければならないと考えています。本プロジェクトを通じて明らかになった教訓は、今、持続可能な能力の構築と同様に優先されるべき活動です。ユニセフとパートナー

団体は、サービスが行き届いていない地域に暮らす若者がサービスを利用できるようにするため、十分な資金の確保に継続的に努めなければなりません。

5. 今後の活動方針

ユニセフ・ガイアナ事務所は、継続的な資金調達を行い、10～14歳の年齢層の若者に関する調査の継続実施、農村部や奥地のコミュニティの若者のためのサービス拡大、子どもや女性に対する暴力の問題に取り組むため、農村部や奥地の警察官に対する研修の実施、虐待を発見するためソーシャルワーカーへの研修の実施、農村部や奥地に設置する子どものためのコミュニティ・ケアセンターの増加、学校プログラムのサポート、奥地に暮らす若者に関わるコミュニティ戦略の策定、奥地のコミュニティ・ラジオ局のサポートなどを行っていきたいと考えています。

6. 募金の使途

内容	金額
若者に関する戦略的な情報の取得： - 若者におけるHIVに関するデータの再調査と編集 - HIVと共に生きる若者たちに関する研究	141,326.24
若者へのサービス強化： - 保健と家庭に関する授業(HFLE)に関する教師やファシリテーターに対する実地研修 - 仲間同士のサポートや若者の参加を促す学校のピア・エデュケーション(仲間同士で教え、学び合う教育)プログラムを含む保健クラブを支援 - HIVの影響を受けている若者やHIV陽性の若者たちに接触するための手段として、スポーツや劇、また情報通信技術を利用し、特にコミュニティレベルで若者を対象に知識の提供や健康的な生活スタイルの選択を推進するHIV予防プログラムを支援	241,049.95
若者を対象とする行動変容コミュニケーション： 写真、動画(携帯電話動画を含む)、ラジオ番組の制作、携帯電話技術や one minute video (メッセージを1分間で伝える映像を制作)様々な技術の使用を推進し、若者主導の情報発信という考えを支援	51,254.62
プログラム・サポート費	85,730.20
モニタリングと評価	31,561.26
合計	550, 922.27
残額	1,408.03

7. 謝辞

FNSチャリティキャンペーンのご支援に心より感謝申し上げます。ユニセフ・ガイアナ事務所は、ガイアナの子どもの開発ニーズに対応するための活動を行うことができました。今後とも、ガイアナの子どもたちの「子どもの権利」を守るため、ユニセフの活動をご支援いただけましたら幸いです。